

はじめに

本書は、平成 16 (2004) 年度～平成 18 (2006) 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「日本語諸方言の条件表現に関する対照研究」(課題番号：16520285・研究代表者：前田直子)の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、方言の文法的側面に関する対照的研究の一分野として、条件表現のうち原因・理由表現について要地方言を統一的に調査し、標準語も含めて比較・対照することにより、現代日本語の条件表現(原因・理由表現)について総合的な分析を行うことを目的としている。

本研究の出発点となっているのは、平成 10 (1998) 年度～平成 13 (2001) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」および平成 14 (2002) 年度～平成 17 (2005) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」(ともに研究代表者は大西拓一郎・国立国語研究所、以下大西科研)である。大西科研では、方言文法に関する調査項目作成を行い、研究成果報告書として『方言文法調査ガイドブック』(2002年)、『方言文法調査ガイドブック 2』(2006年)を刊行した。本科研のメンバーの一部は大西科研にも参加しており、そこで作成した調査項目について、実地調査によりデータを収集・記述したのが本書となる。本書で報告する原因・理由表現の調査項目は、『方言文法調査ガイドブック 2』にも掲載されている。解説文とも併せて参照されたい。

本書の編者である方言文法研究会は、2001年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ①方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ②全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ③方言研究者だけでなく、言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、『全国方言文法辞典』を成すことである。これは、文法カテゴリーごとに記述の枠組みを示し、中央語史および全国方言の地理的分布の概要を示したうえで、当該の文法項目について要地方言の統一的な体系記述を行い、さらに、主要な文法形式についての辞書的記述を備えた、総合的な全国方言の文法記述書を目指すものである。原因・理由表現は、そのモデルケースとして、最初に取り組んだ文法項目である。

本書は、要地方言の記述という点で網羅的ではなく、また、辞書的記述を欠いており、当初の目的に照らすと不十分なものと言わざるを得ない。報告の形式も必ずしも整っておらず、記述の詳しさにも差がある。また、統一の調査項目に従わない記述も含んでいるが、これは、統一調査項目が確定する以前の調査報告を含むためである。現時点では、基礎的なデータ収集とその公開を第一に考え、このような段階のものを報告書にまとめることとなった。

一方、本研究の研究成果は、本書のような冊子形態のものだけでなく、ウェブページにおいて音声を付したデータとともに公開するなど、成果報告の形態自体を将来に生かせるように工夫している。以下のページをご覧ください。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

今後もウェブページには、新しいデータを加えていき、さらに扱う文法項目も広げていく計画となっている。本書は、その通過点にある成果として理解されたい。

研究組織

研究代表者：前田直子

研究分担者：大西拓一郎 小西いずみ 日高水穂 三井はるみ 山田敏弘 吉田雅子

研究協力者：高木千恵 竹田晃子 仲原穰 中本謙 船木礼子

交付決定額（配分額）

平成 16（2004）年度	1,400,000 円
平成 17（2005）年度	900,000 円
平成 18（2006）年度	1,000,000 円

2007年2月
方言文法研究会